

事業完了報告書（江戸川区）

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和7年3月1日
調査研究事項	<p>以下のⅠ～Ⅴのいずれであるかを記載した上で、研究テーマを明記する。</p> <p>Ⅰ 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <p>Ⅱ 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>Ⅲ 都道府県・市町村間の連携に関すること</p> <p>Ⅳ その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>I-①「日本語指導の充実」</p> <p>日本語の習得が十分でない外国籍の生徒を多く抱える夜間学級において、一番の課題は日本語指導の充実である。また、教員には異動が伴うため、配属された教員に一定以上の日本語指導力を維持させることも喫緊の課題となっている。そこで「日本語指導の充実」を本調査研究の一番大きな柱として設定する。</p> <p>I-②「本夜間学級の告知、生徒の負担軽減」</p> <p>次に、新設校であり設備が充実している本校の強みを来年度も広く告知することで、今まで施設面で入学を断念していた生徒へ学習の場を提供していくことを引き続き実施していく。そして、多くの生徒が通学することになると、今年度以上に、発達を含めた様々な障害のある生徒が夜間学級に通学してくることが予想される。本夜間学級での教育活動において、そういった生徒の負担となる要素を取り除くことにより、周りの生徒の心の成長と教育活動の充実も図ることができると考え、「本夜間学級の告知、生徒の負担軽減」を本調査研究の2つ目の柱とする。</p> <p>I-③「誰一人取り残さない教育の実践、共生社会の実現」</p> <p>さらに、東京都において、昼間部通常の学級、知的障害等特別支援学級（固定学級）、夜間学級の3つの学級が併設されている中学校は本校だけである。その特長を生かした教育活動を推進することで、「誰一人取り残さない教育の実践、共生社会の実現」を図ることを本調査研究の3つ目の柱とする。</p>
調査研究の成果	<p>上記①～③の具体的な内容を以下に示す。</p> <p>I-①「日本語指導の充実」</p> <p>(1) 共通教材の作成</p>

教員の異動によって新しく配属された教員（新規採用教員を含む）が日本語の指導を行わなければならない現状を考え、日本語学級のクラスの指導を「共通教材」「漢字」「読み」「会話」「作文」に分け、それぞれの指導時間数分の教材を独自に作成した。特にメイン教材となる「共通教材」は、市販の教材「大地」をパワーポイントで作成し直し、どの教員が授業をしても一定レベルの指導ができるICTを活用した視覚教材を作成した。また、それぞれの視覚教材には、教材内で使われている名称等の音源や文章の音読なども加え、聴覚優位の生徒にも対応できるよう工夫した。本学級の教員が視察に訪れた群馬県太田市での実践をもとに、日本語に初めて触れる生徒への教材として、語彙習得を目標とした本学級の最も基本的な日本語教材（60回分のパワーポイント教材／約1150枚）を作成し、ブラッシュアップを加えた。

（2）クラス変更のための判定試験の作成

日本語学級から通常の学級にクラスを変更する際に、また、日本語学級の中で、日本語の習熟度に応じて他の日本語学級に変更する際に実施する判定試験問題の作成に取り組んだ。作成方法としては、一定の基準を定めた判定試験（日本語能力試験〔JLPT〕における問題及び合格率等を参考に、実施時間を短縮して2単位時間程度〔40分×2コマ以内〕で行えるよう工夫した）を行うことで、今まで各クラスの人数によって在籍学級の変更を行っていたあいまいな学級編制が、日本語の習熟度による適切な学級編制となった。主な生徒の声として、クラス分け判定試験にむけて、なるべく高得点を取り、より上位のクラスへ移りたいという気持ちが多く多くの生徒に芽生えた。また、教員の反応として、学力レベルがより均一化することによって指導効果も高まり、昨年度よりも日本語の習得速度が上がった実感をもつ声が多く聞かれた。

（3）他校の夜間学級の授業視察

東京都夜間中学校研究会（以下、都夜中研と略す）に所属している7校以外の学校の日本語指導について授業視察を計画していたが、今年度より都夜中研の各教科で研究主題を決め、その主題に沿って、1年間研究を推し進めていくことになった。本夜間学級の教員においても、社会科・理科・保健体育科の3つの教科班会の班長を務めることになったため、今年度は都夜中研での教科指導の充実を中心に、指導内容の充実を図ることとなった。その3教科以外においても、すべての教員がいずれかの教科班会に属しているため、それぞれの教科班会において教科の指導技術の向上に努める形となった。すべての教科において年1回の研究授業を行い、対面または配信での授業改善に役立てた。

なお、本夜間学級教員が班長を務めた3つの教科の研究内容

は次のとおりである。

社会科では、やさしい日本語を使用した教材やICT機器を活用することで、多様な背景をもつ生徒に対応した授業づくりの研究を行った。

理科では、高齢の生徒に向けた授業を考える中で、知識の定着をよりすすめるために、日常生活で体験する様々な現象と関連付けて知識の定着を図るための工夫について研究を行った。

保健体育科では、年齢や国籍及び教育環境等が多様化している夜間学級において、普段から授業を進めるうえで気を付けていることや工夫していること、困っていることを共有しながら、より安全で運動量を確保した授業改善について研究を進めた。

他の教科もそれぞれ研究主題を設定して研究を行い、そこで共有した成果と課題については次年度以降に更なる検証を進めていくことになっている。

(4) 講師を招聘した日本語指導に関する研修の充実

本夜間学級においては、今年度より日本語指導についてのカリキュラムを一新し、教材の共通化、根拠のあるクラス分け判定試験の作成等を行い指導の充実を図ってきたが、これらの授業実践についての効果を検証するため、外国籍の生徒への指導経験が豊富で多言語多文化の専門家の講師を招聘した。本校の日本語指導について概要を説明し、実際に授業観察をしていただきながら、それを踏まえて指導講評をしていただいた。その中で、生徒の学習歴を把握しそれに基づいてクラス分けを行うこと、なるべく早めに母語を活用した教科指導を行うことが日本語の習熟にとっても重要であるという新しい視点を示していただけただけで、本学級の日本語指導にこれからどのように生かしていくかという新たな課題も生まれた。

また、近年夜間学級には、日本国籍のみならず外国にルーツをもつ生徒の中にも特別な支援が必要な生徒が多く在籍するようになってきている。そこで、外国につながる生徒の発達の特徴や外国籍の生徒理解に造詣の深い講師を招聘し、一人の生徒の事例研究及び発達支援の方法を学んだ。

それ以外にも、教務主任が中心となって、今年度作成した日本語指導におけるオリジナル教材や授業の進め方、クラス分け判定試験の時期やその基準の作り方等の研修も複数回行った。

(5) 講師を招聘したICTを活用した指導方法の充実

視覚的教材やICT機器を活用して分かりやすく指導することは、日本語の習得において一定の効果があるため、Teamsやミライシード等の活用に詳しい、区から派遣されたICT支援員に講師をお願いし、ICT機器を活用した日本語指導の一層の充実を図った。

I-②「本夜間学級の告知、生徒の負担軽減」

本校は昨年度新設された学校であり、エレベーターが2基設置されている。夜間学級だけで見ると、東京都では本学級と八王子市立第五中学校夜間学級のみを設置されている設備である。ここ2年の間に、車いすで通学している生徒、半身にまひが残る生徒、足腰が弱く長時間歩けない生徒、聞こえに障害のある生徒等が入学してきた。23区にある他の夜間学級ではいずれも対応ができず、十分な教育活動が保証できないとの理由から入学を断られ、本学級に入学し、長時間かけて登校している現状もある。こういった、東京都にある他の夜間学級では施設的に受け入れることが難しい生徒の受け入れを積極的に行えるようにするために、公共機関や駅等にポスターを作成・掲示した。また、区内の区立中学校に在籍している外国籍の生徒の進学先の一つとして、夜間学級を検討してもらえよう、各中学校に本校夜間学級のポスターとパンフレットの掲示を依頼した。

その結果、令和6年3月1日時点の生徒数は40名だったのに対し、今年度は同日比で+16名（56名）と、一定の効果を上げる形になっている。加えて、昨年度までは他県から通う生徒はいなかったが、今年度は2名が隣接県から通学してくることとなっている。来年度はさらに生徒間での口コミ等により、本学級に入学する生徒の増加が十分に見込まれているが、本校側の教室規模の問題もあり、60名程度を上限とせざるを得なくなっており今後の対応も合わせて考えていく必要がある。

また、3年生が参加する京都奈良への1泊2日の修学旅行において、車いすの生徒や半身にまひが残る生徒、高齢の生徒が交通公共機関を利用した移動をした場合、見学場所に着くまでに体力の多くを消耗してしまうことが十分に考えられたため、生徒の移動手段に貸し切りバスを利用した。実施時期が9月中旬だったこともあり、加えて猛暑での修学旅行であったため、すべての生徒にとって貸し切りバスでの移動は体力の温存や回復を図るに十分すぎる効果を得ることができた。見学場所で生徒たちはある程度積極的に行動することができたため、今後は実施時期の検討もさることながら、移動手段としての貸し切りバスの利用は必要不可欠であると考えている。すべての生徒及びすべての教員から、次年度以降の移動時における貸し切りバスの導入の声が上がっている。

I-③「誰一人取り残さない教育の実践、共生社会の実現」

本校の昼間部生徒会の生徒、昼間部知的障害等特別支援学級（固定学級）の生徒、夜間学級の生徒がそれぞれチームを作り、江戸川区が主催しているポッチャ大会に参加した。その事

前練習としてボッチャの用具を購入し、体育の時間を利用してパラスポーツに取り組んだ。参加したチームはそれぞれであったが、お互いのチームの応援を行い一緒になって勝利を喜び合うことができ、同じ学校の一員であるといった一体感が生まれていた。

また、2月には、昼間部と夜間学級の交流学習が行われた。2月14日には、夜間学級の生徒が昼間部のすべての教室を訪問し、自己紹介やクラスレク等を行い、交流を深めた。そして、翌15日には、昼間部の生徒会役員が夜間学級の土曜授業を見学し、夜間学級の生徒が授業を真剣に授業を受ける様子を取材した。この様子は、昼間部の全校朝礼で生徒会役員の生徒が報告する計画となっている。

さらに、他校の夜間学級との交流の場である生徒会連合交流会には生徒全員で参加した。ボッチャなどのスポーツやボードゲーム、全体で行うレクリエーション等を他校の夜間学級生徒とともに行うことで、友情を育み、交流を深めることができた。

月別実施スケジュール

【4月】

- ・校内研修会実施①（生徒理解）

【5月】

- ・校内研修会実施②（日本語指導研修）

【6月】

- ・校内研修会実施③（ICT研修）
- ・修学旅行におけるバスのルート検討
- ・修学旅行生徒事前指導①

【7月】

- ・校内研修会実施④（ICT研修）
- ・修学旅行におけるバスのルート決定
- ・修学旅行生徒事前指導②
- ・招聘する講師の選定

【8月】

- ・校内研修会実施⑤（ICT研修）
- ・夜間学級周知資料の掲示開始①
- ・近隣区の広報誌を活用した周知①
- ・招聘する講師の決定、依頼

【9月】

- ・校内研修会実施⑥（日本語指導）
- ・修学旅行事前指導（健常生徒の役割分担）
- ・修学旅行実施と事後指導、事後アンケート

	<p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修会実施⑦（生徒理解） <p>【11月】</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修会実施⑧（ICT研修） <p>【12月】</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修会実施⑨（講師招聘）※欠席者なし・区内ボッチャ大会参加 <p>【1月】</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修会実施⑩（講師招聘）※欠席者なし・校内研修会実施⑪（講師招聘）※欠席者なし <p>【2月】</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修会実施⑫（日本語指導）・昼間部と夜間学級との交流学习 <p>【3月】</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の研究調査のまとめ・昼間部通常の学級、知的障害特別支援学級（固定学級）、夜間学級による合同卒業式の実施に伴う夜間学級についての理解・啓発の推進
--	---